



C型肝炎を飲み薬だけで治す インターフェロンを使わない 体に優しい最新治療



千葉大学大学院医学研究院
消化器・腎臓内科学教授

よこすか おさむ
横須賀 収 医師

C型肝炎とは？

肝炎とは、肝炎ウイルスが原因で肝臓に炎症が起き、徐々にその機能が失われていく病気です。

原因となるウイルスには、A・B・C・D・E型の5種類がありますが、日本で最も患者数が多いのがC型肝炎です。現在、国内で約一二〇万人の人がC型肝炎ウイルスに感染しているとされています。

ところが、その中で治療に取り組んでいるのは約半数もいません。残る半数の中には、感染に気づいてすらいない人も多いと言われています。

その原因となっているのが、この病気の「自覚症状の無さ」です。

C型肝炎の進行はゆっくりで、「なんとなくだるい」といった程度の症状を訴える人はいるものの、大部分の人はこれといった自覚症状がありません。

感染しても、それに気づかぬまま慢性肝炎となり、気づいた時には、肝硬変や肝臓がんへと進行していることの多い病気です。

これまでのC型肝炎治療

C型肝炎の治療といえば、日本では1992年から、インターフェロンという薬を中心に行われてきました。

インターフェロンには免疫機能を強くする作用があり、それによってウイルスを排除したり、がん細胞が増殖するのを抑えたりする働きがあります。

しかし、インターフェロンが使われ始めた当初の治療成績は、残念ながらかなり低いものでした。

その後、「リバビリン」という抗ウイルス剤と併せて使う治療法や、インターフェロンの改良版といえる「ペグインターフェロン」が開発されたことにより治療効果は格段に上がり、C型肝炎治療は、目覚ましい勢いで進歩しました。

ただし、インターフェロンには、副作用が強いという大きな問題があります。発熱・悪寒・全身倦怠・食欲不振などのほか、うつ病を引き起こすこともあるため、お年寄りや虚弱体質の方には使うことができません。

以前は「完治は無理」と言われてきたC型肝炎。しかし近年、次々と新薬が開発され、その治療法は劇的なまでに進歩しています。

治せるようになった今こそ、あきらめず治療していただくために、C型肝炎の最新治療について、千葉大学医学部附属病院の横須賀収医師に伺いました。

さらに、C型肝炎の中でも日本人に最も多い1b型のウイルスには効きにくいことや、治療期間が長いなどの問題もあり、治療を受けることのできない患者さんが多くいました。

そんな中、ついに登場したのが、インターフェロンを使わない最新治療です。

新薬がもたらす目覚ましい治療効果

C型肝炎の最新治療では、インターフェロンは使わず、近年、次々と開発された抗ウイルス剤を組み合わせる使い、ウイルスを体内から排除します。

2014年に登場した「ダグラタスビル」と「アスナプレビル」は、インターフェロンが効きにくいタイプのウイルスにも効果を発揮します。

2015年に登場した「ソホスブビル」は、「リバビリン」と併用することでウイルス排除率が97%以上、「レジパスビル」と「ソホスブビル」の配合剤では、100%近くの患者さんのウイルスが排除されたという極めて高い治療成績を上げています。

これらはすべて飲み薬で、治療期間も短く、何よりも副作用が少ないため、患者さんの負担は大きく軽減されました。

以前なら治療をあきらめざるを得な

かった人も、飲み薬だけでC型肝炎を治せる時代が来たのです。

治せる病気を治すため、まず検診！

C型肝炎の治療法が素晴らしい進歩を遂げた一方、自分の感染に気づいていない人や、検査でC型肝炎がわかっていても、自覚症状の無さから治療に取り組んでいない患者さんがたくさんいるのも現実です。

治療を受ければ助かったはずの人が、肝硬変や肝臓がんになるまで放置され命を落とすことになるのは非常に残念なことです。

感染しているかどうかは、簡単な血液検査ですぐわかるので、まずは一度検査を受けてください。

C型肝炎の検査は、保健所に申請すれば無料で受けられますし、40才以上の方なら、市町村の無料検診を受けられます。現在の日本では、輸血や手術等で新たに感染する可能性はまず無いため、一生に一度検査を受けていただければ大丈夫です。

そしてもし感染していることがわかったら、自覚症状が何も無かったとしても、必ず専門医療機関を受診し、治療を始めてください。

C型肝炎の感染経路について

- C型肝炎ウイルスは血液を介して感染します。今、感染している方のほとんどは、C型肝炎ウイルスが発見された1989年より前の輸血や注射が原因です。
- ウイルスが混入した血液が輸血に使われることや、注射針を使いまわすことが無くなった現在では、医療行為が原因で感染することはありません。しかし、ピアスの穴あけや医療現場での針刺し事故などによる感染はみられるため、注意は必要です。
- C型肝炎は、母乳、食物、水によって感染することはなく、感染者と同じ食べ物や飲み物をとったり、キスやハグをするといった日常的接触によって感染することはありません。誤解による差別や偏見を防ぐために、正しい知識が必要です。